

教材は貴重な收藏品

@キャンパス



美術工芸資料館 (綾ヶ崎キャンパス内)



2階の窓からは比叡山を見える

西部構内の中央西門を入って、正面奥に立つ茶色のタイル張り建物が美術工芸資料館。1980(昭和55)年、収集されてきた多くの美術工芸資料を調査研究、整理、展示公開するための学内共同研究施設として設置された。収蔵品は、4千点に及び、絵画、彫刻、陶器、ポスター、工藝品、建築模型など、分野は多岐にわたる。

「壁の中で残った教授も貴重な作品だ」と、学内にこういった施設があるのは、いい。工芸学部デザイン経営工芸課程で学ぶ野村真さん(20)は、「上記区」は頻りに足を運ぶ。収蔵品の中となるのは、フルタイムの「さなかに製作

京都工芸繊維大の松ヶ崎キャンパス(京都市左京区)にある美術工芸資料館。19世紀の終わりから20世紀初めにかけて、欧州を中心とした新しい芸術運動「アールヌーボー」。当時の貴重な工芸品が収蔵されていることで知られる。デザインを学んでいる学生の「もう一つの学び」であり、大学の歴史を伝える施設でもある。

4万4千点、アールヌーボー期象徴

された工芸品ポスターなど、た建築家田五二といった教授を務めた大たちが、欧州から多くの工芸品を多量として持ち帰った。

明治時代、京都は、伝統工芸を新しい時代・近代に対応させるにはどうすべきかという問題に直面していた。

高等工芸学校の開校は、当時の世界的新しいデザイナ(在り方を導く伝統工芸を伝えること)を命として掲げ、本格的に始めるデザイン教育のため、初代校長の中野実のほか、明治を築く洋装洋裁洋装デザイナーの設計に関わった

などという。ロートレックを当時はやっていたフランスのバスターや画家の作品をほぼ同時期に入ってきた。ティウワン・ジャンネ(1874-1917)の作品の中でも非常に早い時期のものである。

館の並木謙士(工芸科学研究所教授)は「アールヌーボー」というものを後述する具体的な作品がまたまた資料館として収蔵されている」と指摘する。

匠巻のポスター・コレクション



授業で触れた作品を見に行こう

16日から3展覧会 ふらっと立ち寄ってみては?

美術工芸資料館ではポスター・コレクションや建築に関する展覧会を開いている。

16日からは「ハンガリーのデザイナー ジョルナイ・イロの陶磁器と漆器ポスター」。「探訪の新たな姿 彫刻 明治期における陶磁器展」。「第13回 村野藤吾建築設計展 村野藤吾の住みデザイン」の3を予定。さらに2015年のオリジナル招致と関連して、「日本は過去のオリジナルポスター」の展示も企画予定。

また、1階に展示されている「武上山 藤二」は、藤井忠が京大高等工芸校で建築教育をする傍ら描いたもので、東京師範の掛けの原典として制作された。藤井の作、藤井の連綿の中にもこれほど大きなものは他になく、加えてこれに関する一連の制作群は、制作過程を示す貴重な資料となっている。

図案科の学生たちも、これほど貴重な作品を学べる機会が、現在の学生たちの教材であり続けている。もう一つ立ち寄ってか、学生たちが学んだ品の数々を眺めてみるのもまた面白いかもしれない。



藤井忠(1874-1950) 京都工芸繊維大初代校長 彫刻家

本学には美術工芸資料館があります。本学の学生は学生証を提示して、無料で入ることが出来ます。一年を通して、時期や学内事情などにより予め企画された展覧会が開催されます。美術工芸資料館は、展覧会を開催するだけでなく、学芸員資格を目指す学生を中心に、学芸員資格を持つている方の実践的な教育の場としても活用されています。

京都工芸繊維大学
広報チーム
K-NOSBY

今週の記者
工芸科学部
3年 津田 研(21)
1年 岡田 楓(20)
1年 岸田 彩花(19)

うちのプロジェクト
京都工芸繊維大の魅力を学生目線で発掘・発信することで、京都や日本、世界での知名度向上やアランド価値を高めることを目指し、2013年7月に結成しました。大学公式のフェイス

ブックやツイッター、LINE(無料通信アプリ)で大学の様子や季節感のある周辺情報を発信。高校生に向けた大学紹介紙の制作や他大学の広報団体との交流などもしています。